



ファヴォーレだより

福生市加美平1丁目20-23
TEL 042-530-2145



今年も昨年と同様に10月になっても真夏日が何日もある気温の高い秋になりました。

でも、子ども達は元気いっぱい。勢いよく教室に入ってきます。

そんな中で、子どもさん達を個別に観察すると、おしごとの取り組み方にもそれぞれの特長が見られます。

先日から、年中さんで、これまで日常の活動をあまりしない方がいて、少し気になっていましたが、ここ数回連続してハサミのおしごとに取り組んでいます。手先を使う細かい作業は、その後のいろいろなおしごとにつながっていて大切なおしごとですが、本人自ら選択したのです。

最初は、直線を切るのも不安げな様子でしたが、先日はとうとう細かなデザインの「コウモリ」をきれいに切ったのです。本人も達成感を味わったのか、満足そうな様子でまた自信をつけたようです。

今後も、個別に活動をよく見て、子どもさん達をサポートしていきたいと思います。



モンテッソーリ教育・数教育

「知りたい気持ち」を育てる

子どもたちが数の活動をする以前に、実は日常生活の練習や感覚教育など、数々のおしごとの中で、秩序感や順序性、また、同じものを見つける・比較する、などのことをたくさん経験します。

つまり、数として知る前に、「長さ」や「重さ」「大きさ」があることなども経験してきています。

数には数詞・数字・数そのもの、の3つの意味がありますが、ファヴォーレで子どもたちが学習するのは「数そのもの」です。「数そのもの」を理解することは簡単ではなく、幼児の視点から見て、わかりやすく、捉えやすい提供法の理論があります。

3歳から6歳の子どもの成長と理解力に沿った提供方法は、科学的に見たこどもの成長プログラムを基本として、各グループごとに体系化されています。順序よく提供され、教具をこども自身が扱って、感覚的印象で捉えやすくなっています。また、数詞や数字からではなく、量から入るのがモンテッソーリ教育の大きな特徴でもあります。

優れた数教材のおかげで、ファヴォーレの卒業生は算数・数学が好きになり、得意としているお子さんが多いのです。

大人でもお子さんでも同じだと思いますが、その人が伸びるのは、何かのきっかけがあって、それを機に見違えるほど成長することがあります。

学習サポートクラブでも、そうしたきっかけがつかめる事があります。文章を読んでいて、知らない言葉が出てきたときにそのまま、スルーしてしまうのと、好奇心を持ってもっと知ろうとするのでは結果は明らかです。

小さいお子さんですと、電車や恐竜などに興味を持つ場合が多いような気がしますが、さらにその先に進んで「ゆふいんの森」や「特急スペース」 「トレインスイート四季島」などの豪華列車の知識も身につけてしまいます。

以前、兵庫県の進学校・灘高校の国語の授業で、教科書を使わないで、代わりに作家・中勘助の「銀の匙」を一年かけて読んでいく事をご紹介しました。一つひとつのことを読み飛ばさないで、丁寧に調べて理解するのが目的です。

ファヴォーレの学習サポートクラブでも、「バナナはどんな風に成長して黄色いバナナになるの?」とか「ラリマールってどんな宝石?」などお子さんと調べたこともありました。解らないことをそのままにしないで、学習する習慣が身につけば、と思います。



土曜日のクラス
おやつ時間の様子



おやつタイムは時にはみんなでいろいろお話をします

